2027年3月期 第2四半期
決算説明会

Power Electronics
for Your Innovation

サンケン電気株式会社

2026年11月12日

ビジョン



© 2026 Sanken Electric Co., Ltd.

目次

- 2027年3月期 第2四半期業績
- 2027年3月期 通期業績予想
- 将来に向けた取組み

© 2026 Sanken Electric Co., Ltd.

2027年3月期 第2四半期業績

© 2026 Sanken Electric Co., Ltd.

2027年3月期　第2四半期業績

(億円)	2026年3月期							2027年3月期			上期 前年比		上期 5月予想比		5月 業績予想	
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	金額	増減率	金額	増減率	上期	通期
売上高	222	188	410	181	210	392	802	187	186	373	-37	-9.1%	-20	-5.2%	393	865
サンケンコア	210	185	395	181	210	392	786	187	186	373	-22	-5.6%	-20	-5.2%	393	865
その他	12	3	15	0	0	0	16	—	—	—	—	—	—	—	—	—
営業利益	-4	-5	-9	-8	-30	-38	-47	-21	-5	-26	-16	—	-2	—	-24	14
サンケンコア	-3	-4	-7	-8	-30	-38	-45	-21	-5	-26	-19	—	-2	—	-24	14
連結調整他	-1	-1	-2	0	0	0	-2	—	—	—	—	—	—	—	—	—
持分法投資/LPS運用損益	-1	9	8	-10	-27	-38	-30	6	-2	3	-5	—	—	—	—	—
経常利益	-9	1	-8	-22	-58	-80	-88	-18	-12	-30	-21	—	-1	—	-29	1
特別損益	3	-3	0	4	-4	0	0	2	8	9	+10	—	—	—	—	—
当期純利益	-9	-5	-14	-21	-63	-84	-98	-19	-7	-25	-11	—	+4	—	-29	10
一株当たり当期純利益（円）			-65.18				-472.88			-126.42	-61.24	—	13.54	—	-139.96	48.26
為替レート　累計平均	144.62	146.04		148.73	150.69			159.57	159.50						155.00	
(Yen/USD)　3か月平均	144.62	147.47		154.10	156.97			159.57	159.42							

サンケンコア

＜上期　前年比(億円)＞

売上	白物家電市場を中心とした減収 −22(うち為替 +20)
営業利益	売上減 −10、材料高騰 −16、生産減 −21、金属建値対策 +5、固定費削減 +13、為替 +10

連結

＜上期　営業外損益以下 主な計上額(億円)＞

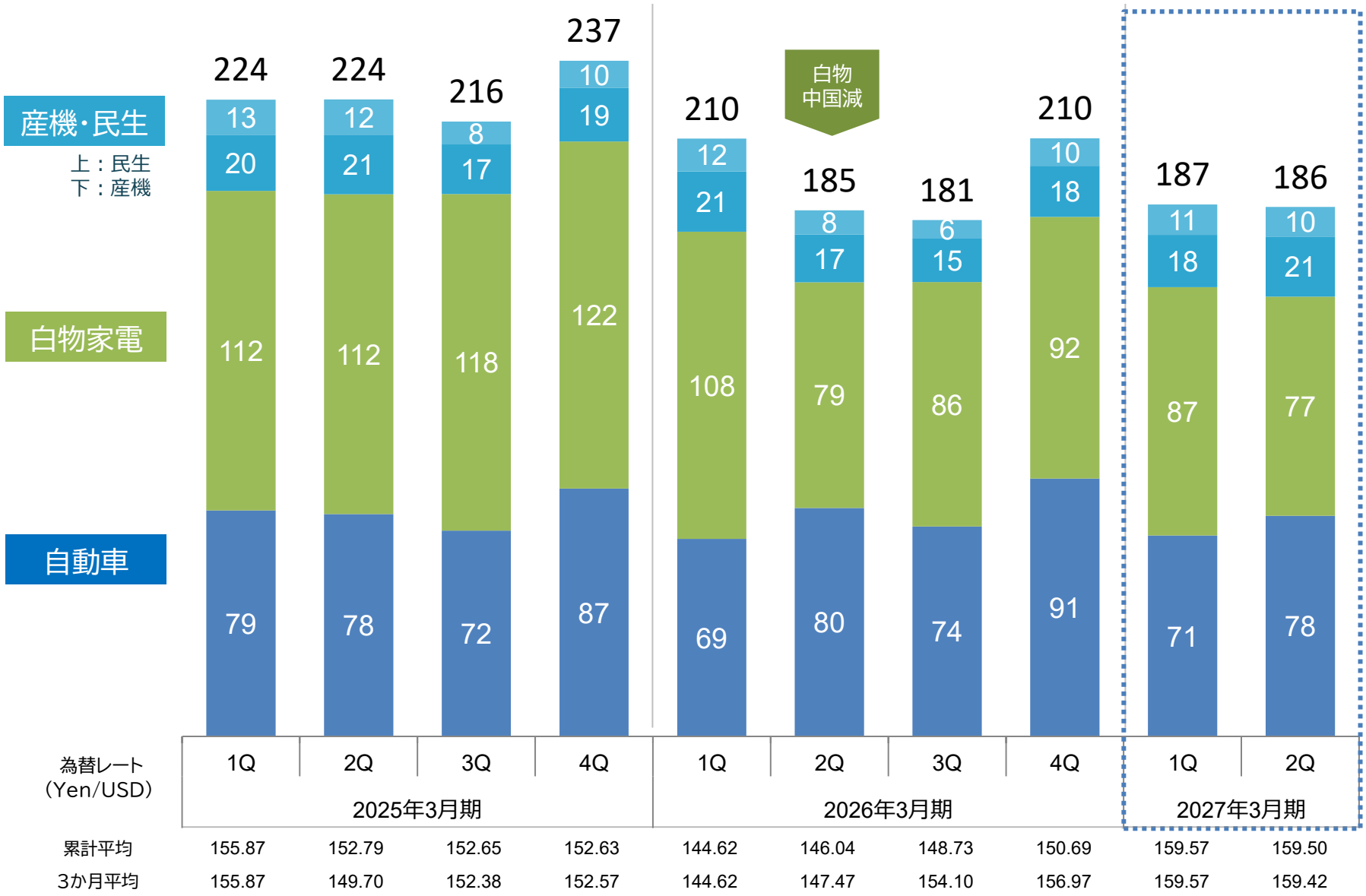
営業外損益	・持分法投資/LPS運用損益	： + 3	(アレグロ当期純利益の持分法利益+6、LPS運用損−3)
	・為替差損、利息収支	： − 8	
特別利益	・持分変動利益	： + 15	(アレグロ株式報酬計上に伴う持分変動影響)
特別損失	・特別退職金	： − 5	(山形サンケン)
法人税等		： − 5	

※山形サンケンが実施した希望退職による労務費削減効果は年間 4億円(半期 2億円)を見込む

© 2026　Sanken Electric Co., Ltd.

市場別売上高　四半期推移

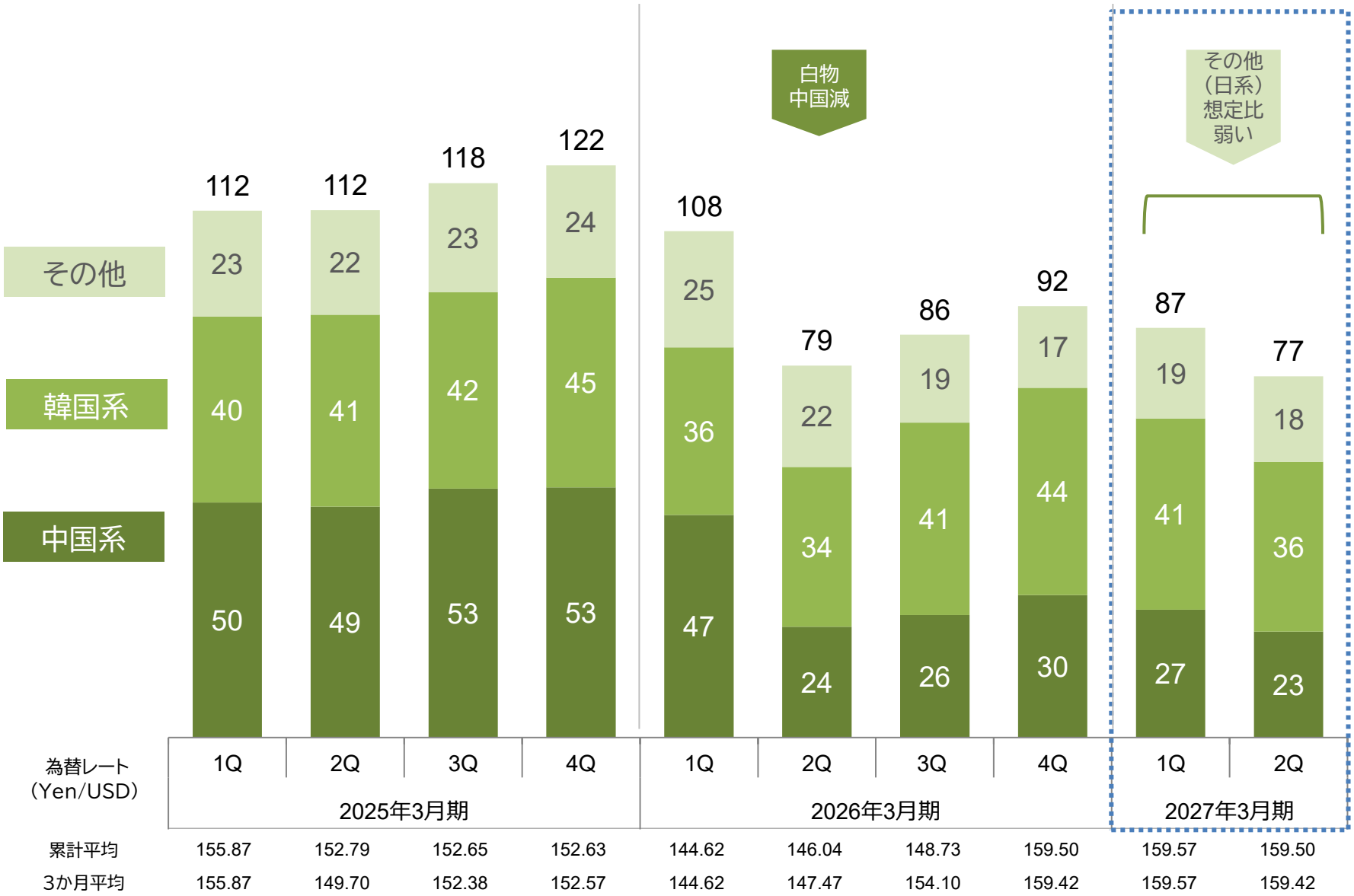
（億円）



© 2026 Sanken Electric Co., Ltd.

白物家電市場　＞顧客グループ別売上高

（億円）



© 2026 Sanken Electric Co., Ltd.

財務状況

モニタリング指標は一定水準を維持

	2025年3月末	2026年3月末	2026年9月末
自己資本比率	56.9%	50.1%	51.1%
D/Eレシオ	0.43x	0.67x	0.72x

© 2026 Sanken Electric Co., Ltd.

2027年3月期 通期業績予想

© 2026 Sanken Electric Co., Ltd.

市場環境

～マクロの情勢～

- 金属建値、素材・エネルギー価格は概ね横ばいで推移する一方、部材価格の上昇傾向は続く
- 中国経済の成長鈍化が投資・消費活動に影響
  国産化政策を背景とした現地調達志向が継続
- 新興国経済に減速感が見られる中、インドは堅調を維持
- IEAは、データセンター・空調・BEV等の増加により電力需要が加速すると予想
- 基幹産業※1では、差別化された大電力・高効率パワーモジュール需要が旺盛　汎用領域は標準化が進展

自動車市場

- CY26 OEM生産台数予測　92M台
  グローバルではICE/HEV向けが引き続き堅調
- BEV市場は世界的な調整局面が続くも、欧州では回復傾向
- [空調]電動コンプレッサー向けIPMが、国内BEV/PHEV新モデルに搭載され、純増見込み
- [パワトレ]EVトラクションモータ用パワーモジュールを複数Tier1に拡販の他、OEMへも展開中
- [シャシー]運転支援から自動運転への機能拡充に向け、ソレノイド・ポンプ駆動制御の引き合いが増加

白物家電市場

- 韓国顧客は、足元がシーズナリティで減も、4Q以降は次年度の部品取りが開始する見込み
- 中国顧客の生産は、需要減で前年を下回る見通し
- 日系顧客の一部で、中国需要減の影響が継続見込み
- デザイントレンドは、小型・面実装・放熱フィンレス化にあり、GaN搭載の次世代新製品を主要顧客に提案中
- インド・欧米顧客へのFAEサポート強化によって、IPM/電源ICの受注獲得に繋がっており、さらにデザインインが進む見通し

産機/民生市場

- 汎用ポンプ用1200V高耐圧ケースモジュールが、海外大手顧客向けに下期から出荷開始
- データセンターのチラー用インバータ向けに、EVトラクションモータ用パワーモジュールを応用展開し、具体的な実装設計に着手
- データセンターのECファン向けに、高耐圧IPMの開発が進行中(SAM2 1200V40A Si-IGBT)
- MCU搭載のデジタル電源ICが、韓国ハイエンドTV向けで新規採用、今後中級機にも採用拡大

※1 AIデータセンター、グリーンエネルギー、ESS、交通ネットワーク、通信インフラなど

© 2026 Sanken Electric Co., Ltd.

2027年3月期　業績予想

（億円）	2026年3月期実績			2027年3月期予想			通期 前期比		下期 5月予想比		5月 業績予想		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	金額	増減率	金額	増減率	上期	下期	通期
売上高	410	392	802	**373**	**447**	**820**	―	―	-25	-5.2%	393	472	865
サンケンコア	395	391	786	**373**	**447**	**820**	+34	+4.3%	-25	-5.2%	393	472	865
その他 ※	15	0	16	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―
営業利益	-9	-38	-47	**-26**	**40**	**14**	―	―	+2	―	-24	38	14
サンケンコア	-7	-38	-45	**-26**	**40**	**14**	+59	―	+2	―	-24	38	14
連結調整他	-2	0	-2	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―
持分法投資/LPS運用損益	8	-38	-30	3	―	―							
経常利益	-8	-80	-88	**-30**	**31**	**1**	―	―	+1	―	-29	30	1
特別損益	0	0	0	9	―	―							
当期純利益	-14	-84	-98	**-25**	**35**	**10**	―	―	-4	―	-29	39	10
一株当たり当期純利益(円)			-472.88			**48.26**	―	―	―	―	-139.96	188.22	48.26
為替レート (Yen/USD)　累計平均			150.69		155（下期）								155.00

※売上高その他：旧ユニット事業

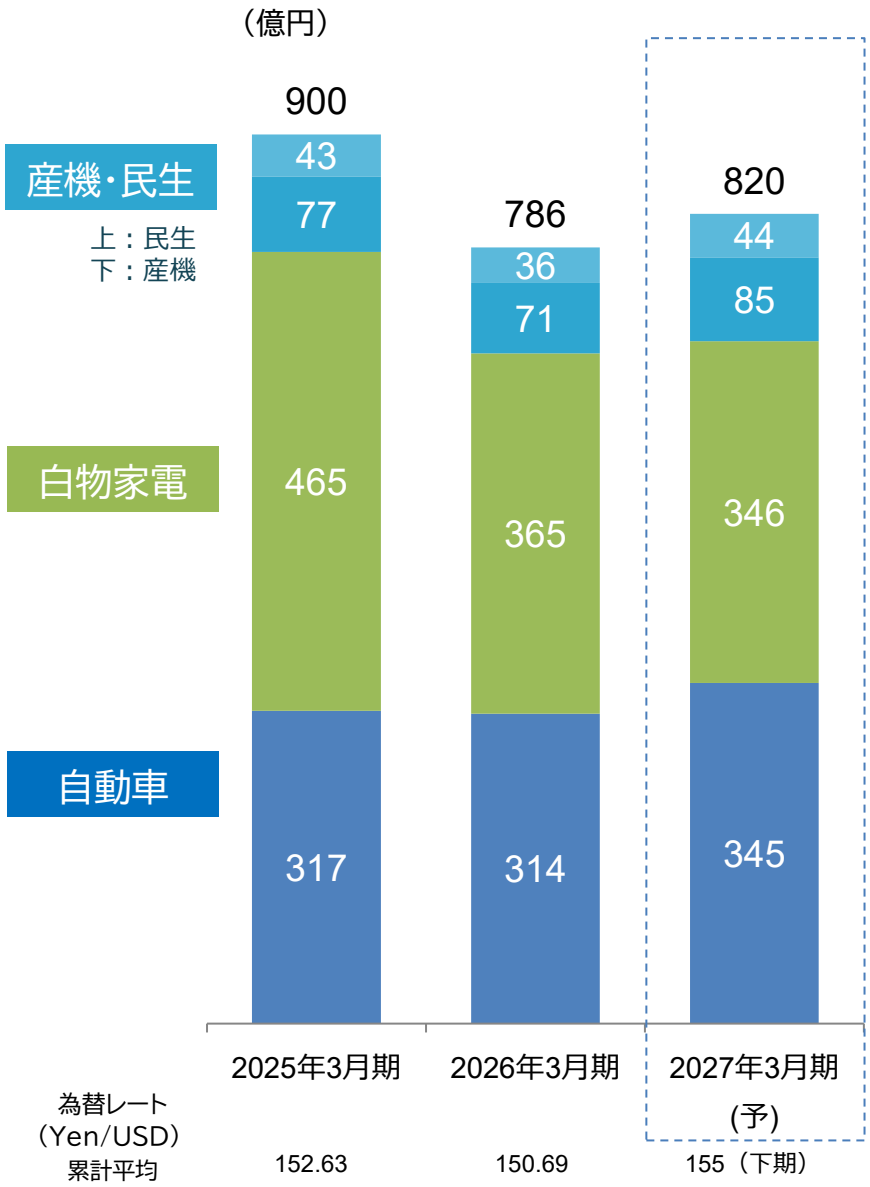
＜11月予想値＞
- 売上高は白物家電市場における市場における今後の需要見通しや販売動向等を踏まえ見直し
- 営業利益は各種施策を織り込み、据え置く（P14にて説明）
- 経常利益及び当期純利益は、持分法投資及びLPS運用損益を5月業績予想時点と同様の見立てとし、据え置く

＜変動要素（前期比）＞
売上高　　：（＋）適正売価条件の獲得、自動車向けパワーモジュール及び産機・民生向けパワーデバイス伸長、為替
営業利益　：（－）部材価格高騰
　　（＋）生産増減等、適正売価条件の獲得、金属建値対策、生産再編、経費削減、為替

2027年3月期 対ドル想定為替影響（1円変動／年）：売上高 約3億円　営業利益 約1.5億円（円安でプラス・円高でマイナス）

© 2026　Sanken Electric Co., Ltd.

市場別売上高　通期推移



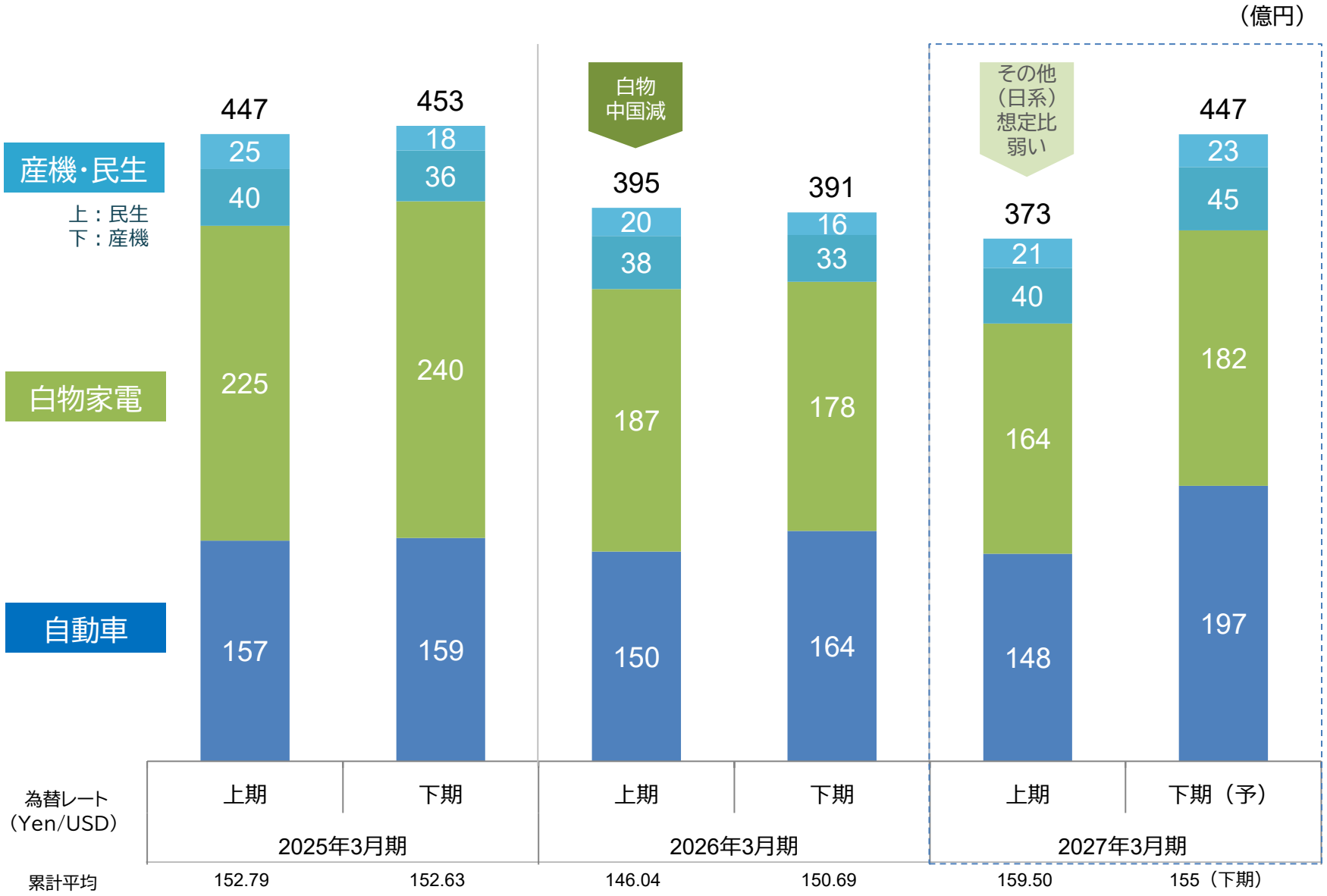
FA・OA向けのパワーデバイスが堅調に推移
韓国ハイエンドTV向けにデジタル電源ICが拡大

中国の白物家電需要が低迷し、中国及び日系顧客が伸び悩む
インド・欧州向けが投入スタート

ICE堅調維持、空調等でIPM売上増
季節要因＋適正売価獲得で四半期80億円以上を確保

© 2026 Sanken Electric Co., Ltd.

市場別売上高　半期推移

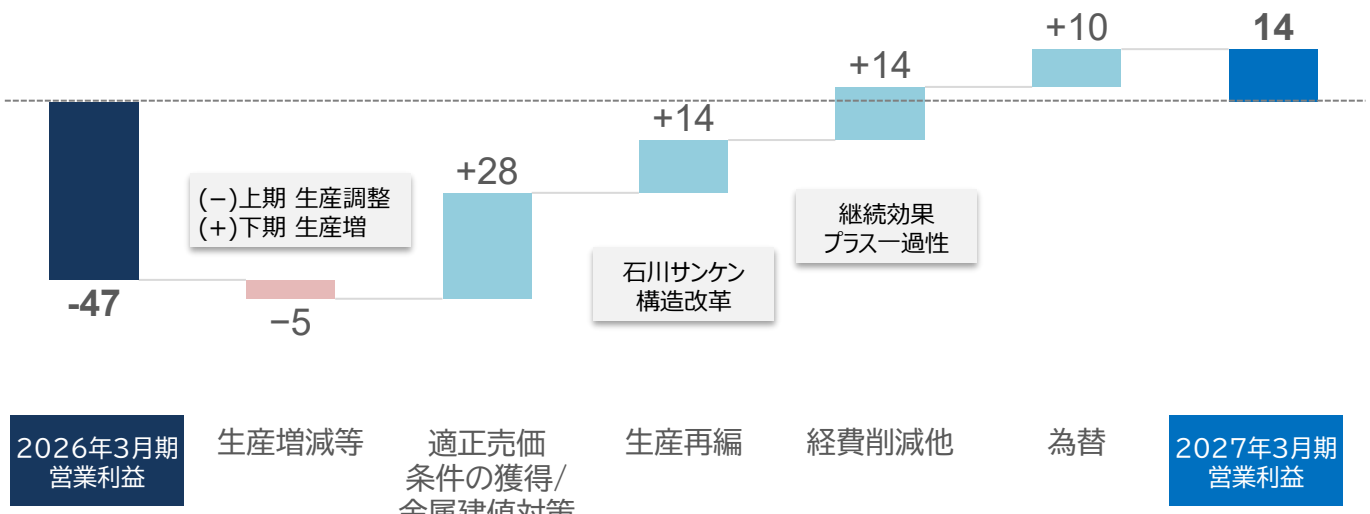


© 2026 Sanken Electric Co., Ltd.

営業利益変動要因

2027年3月期業績予想　前期比較

（億円）

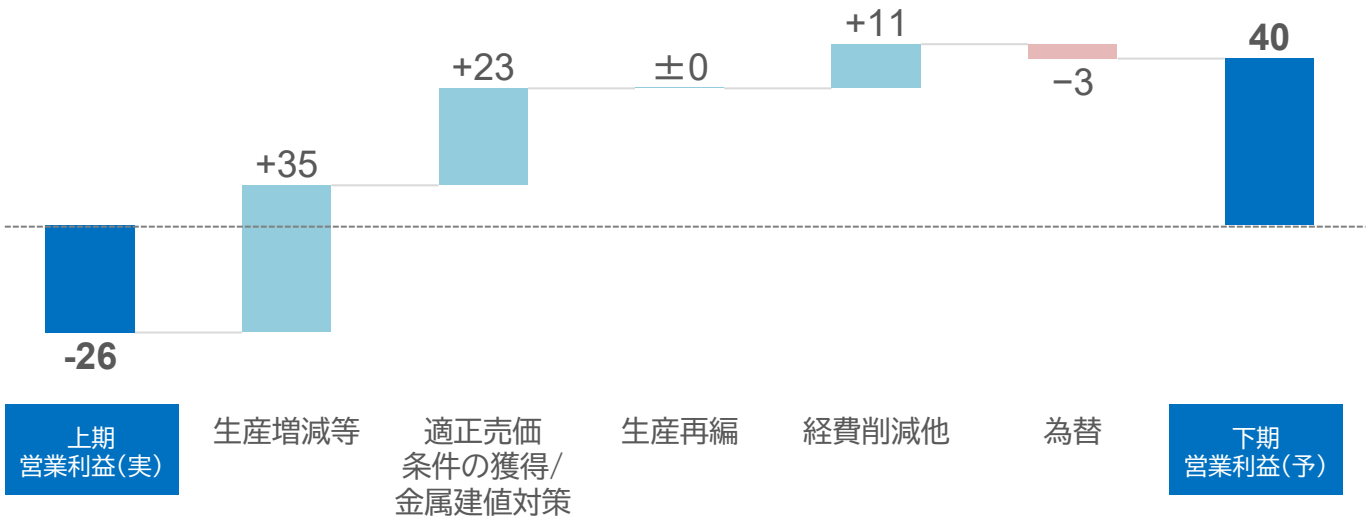


＜前期比＞

- 適正売価条件の獲得/金属建値対策は概ね計画通り進捗
- 売上減に伴う生産減は為替影響にて相殺

2027年3月期業績予想　上下比較

（億円）



＜上期比＞

- 生産の回復と経費削減による利益改善
- 適正売価条件の獲得と金属建値対策が進展

© 2026　Sanken Electric Co., Ltd.

将来に向けた取組み

© 2026 Sanken Electric Co., Ltd.

今後の成長イメージ

ポートフォリオ転換を軸とし、成長軌道に明確な道筋

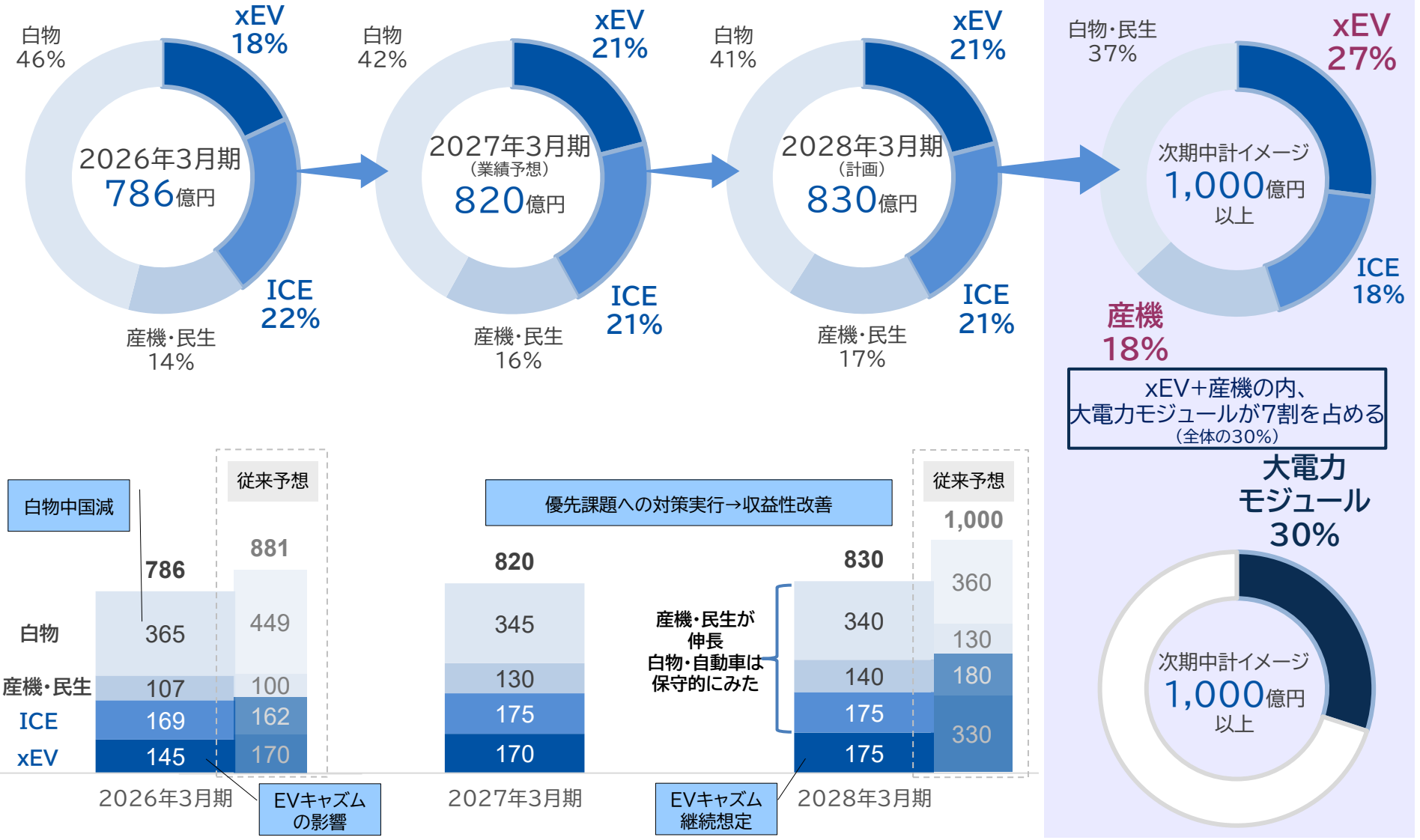
	24中計	1年目:震災リカバリー		2年目:市場変化に対応		3～4年目:成長軌道に道筋		2028年3月期	次期中計イメージ
		2025年3月期		2026年3月期		2027年3月期	ポートフォリオ転換		
売上高		サンケンコア 900億円	[自動車] EVキャズム / [白物] 中国自国製 半導体シフト	サンケンコア 786億円	[自動車] EVキャズム継続 ICE/HEV堅調 ⇒産機拡販 / [白物] 中国維持 韓国伸長 ⇒インド・欧米 拡販	業績予想 865億円 ⇓ 820億円	大電力モジュールを中軸へ 【産機】 ◇AIデータセンター 冷却システム/空調 ◇グリーンエネルギー PVインバータ 【自動車】 ◇BEVインバータ GaNポートフォリオの早期確立 ◆縦型GaNの早期開発 ◆GaN搭載製品早期上市 インド市場での事業機会獲得 グローバル顧客への拡販強化	計画 875億円 ⇓ 830億円	1,000億円
営業利益及び利益率		サンケンコア 20億円 (2.2%)	金属建値・素材/エネルギー価格高騰	サンケンコア △45億円	原価改善 ✓適正売価獲得 ✓固定費削減 ✓Au→Cu変更	14億円	最適原価の実現 生産協業効果	4%以上	10%以上
損分点(BEP)		860億円		890億円		790億円			
為替(対USD)		152.63円		150.69円		155円			

※1 AIデータセンター、グリーンエネルギー、ESS、交通ネットワーク、通信インフラなど

© 2026 Sanken Electric Co., Ltd.

今後の成長イメージ

大電力モジュールを事業ポートフォリオの中軸に置く



© 2026 Sanken Electric Co., Ltd.

大電力モジュールを中軸に、事業ポートフォリオを大きく転換

自動車・白物家電で培った技術を、成長する基幹産業市場へ展開

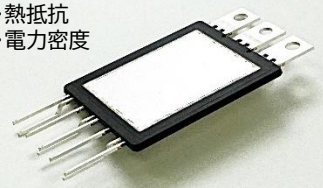
事業ポートフォリオの中軸へ

大電力モジュール

▷EVメインモータ向け

世界最高水準の性能 (当社調べ)

・熱抵抗
・電力密度



薄型高放熱モジュール

▷チラーインバータ向け



ケースモジュール

▷ 次世代チラーインバータ向け



液冷式 大電力ユニット

＋化合物半導体(SiC、縦型GaN)搭載モデル拡充

成長市場ターゲット

基幹産業

AIデータセンター・通信 ／ 空調

グリーンエネルギー ／ FA・産機

自動車

BEV ／ 次世代モビリティ

大電力・高効率化の需要を取り込む

(用途を示す画像はイメージです)

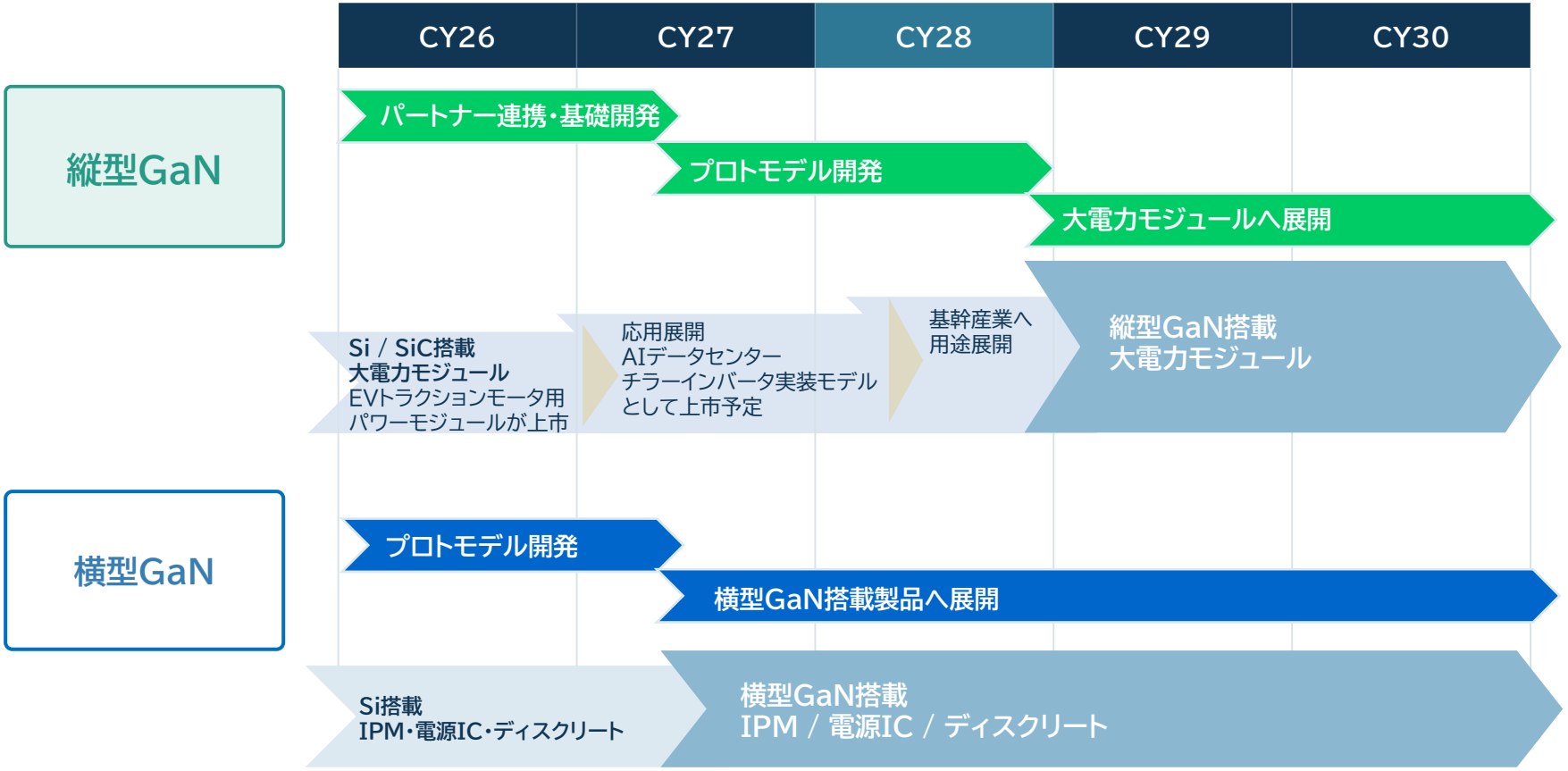
パワーコンポーネントからパワーソリューションへ
用途に最適な顧客価値を提供

成長を支える技術・実績基盤 | モータ制御 × 電力変換 × 量産品質・市場対応力

© 2026 Sanken Electric Co., Ltd.

GaNポートフォリオを早期確立
搭載製品を拡大し、独自性と差別化でリード

縦型GaN：次世代の大電力領域を開拓 ｜ 横型GaN：IPM・電源IC・ディスクリートへ展開



横型・縦型GaN(+SiC)の搭載製品を拡大させ、
当社製品の独自性と差別化により、高い競争力をもつ製品展開を実現させる

© 2026 Sanken Electric Co., Ltd.

インドにおけるLED・パワーデバイスの生産協業

（サンケン電気とKaynes SemiconはLED及びパワーデバイスの生産に関する戦略的パートナーシップを締結）

サンケン電気と Kaynes Semicon は LED 及びパワーデバイスの生産に関する
戦略的パートナーシップを締結

サンケン電気株式会社（本社：埼玉県、代表取締役社長 CEO：髙橋 広、以下「サンケン電気」）は、インドで半導体の後工程（OSAT）を展開する Kaynes Semicon Private Limited（本社：インド・カルナータカ州、以下「Kaynes」）と、インドにおける LED 及びパワーデバイスの生産に関する協業（以下「本協業」）を検討することに合意しましたので、お知らせいたします。

本協業は、インド政府が掲げる「Make in India」戦略に従い、急速に成長するインド市場における競争優位性の確保を目的としており、両社のリソースを相互に活用することで、需要変動に対するリスクを低減しつつ、投資効率を最大化する狙いがあります。

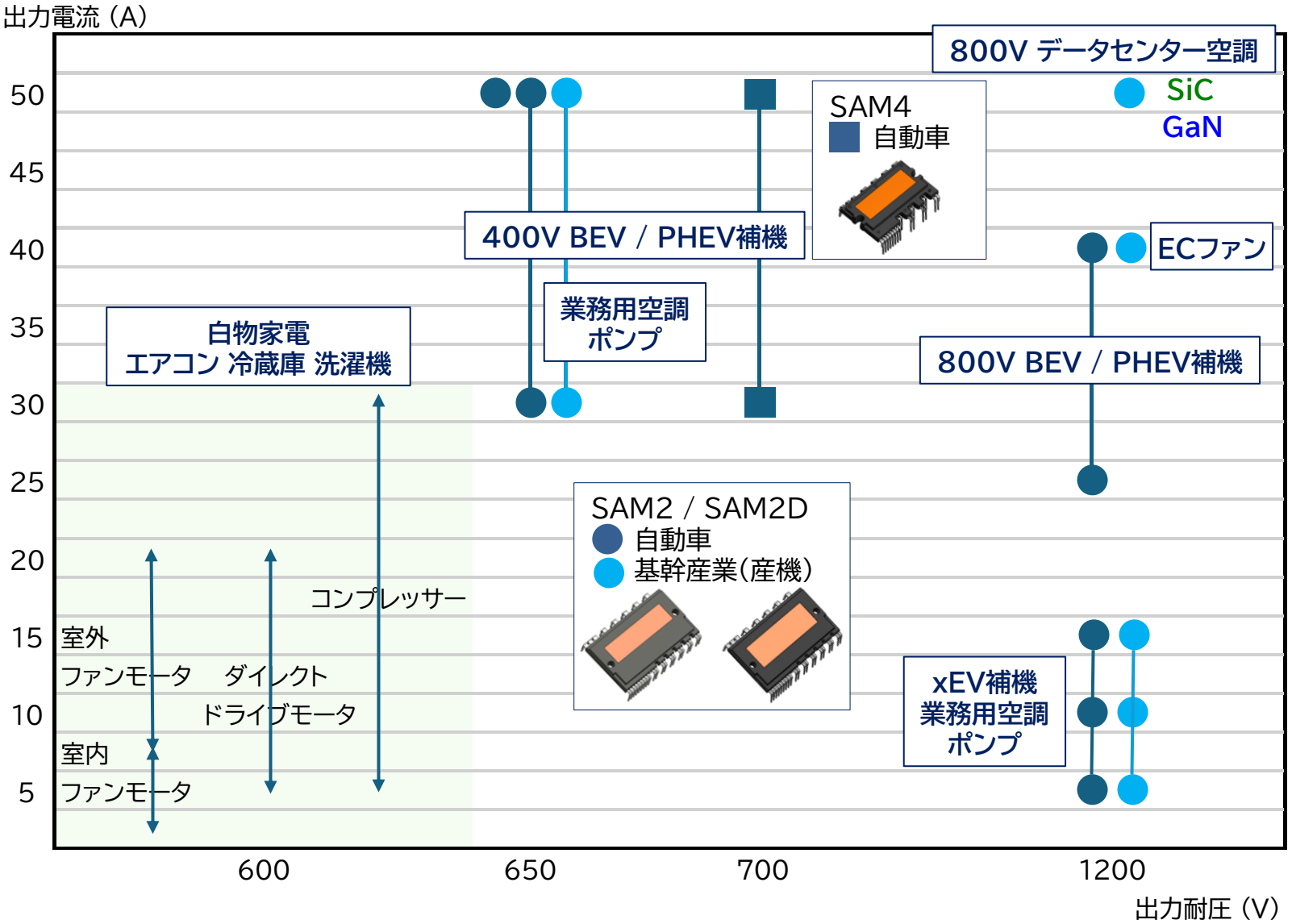
サンケン電気が有するグローバルな顧客基盤及び高品質な製品と、インド国内に拠点を擁する Kaynes の生産対応力を融合させることで、インドにおける自動車・産機・民生市場での事業機会を獲得していく考えです。

LED について、サンケン電気は Kaynes から OSAT パートナーとして支援を受けつつ、インド市場における事業拡大の機会を模索してまいります。また今後、両社は LED とパワーデバイスの委託生産に関する主要な検討事項について、引き続き協議を進めてまいります。

© 2026 Sanken Electric Co., Ltd.

IPMの用途・技術展開

基幹産業・自動車・白物家電で幅広く共通使用できるラインナップ
中電力領域での競争優位性を高める



© 2026 Sanken Electric Co., Ltd.

株主還元

中間期は無配とし、サンケンコア収益性改善を最優先とする

配当方針

- 27年3月期中間期配当は無配とさせていただきます。
- 期末配当方針については、サンケンコアの収益性改善の進捗及び外部環境等を注視しながら検討する方針に変更はなく、配当予想は未定を継続いたします。下期の事業計画遂行に向け、収益性改善施策を着実に進めてまいります。

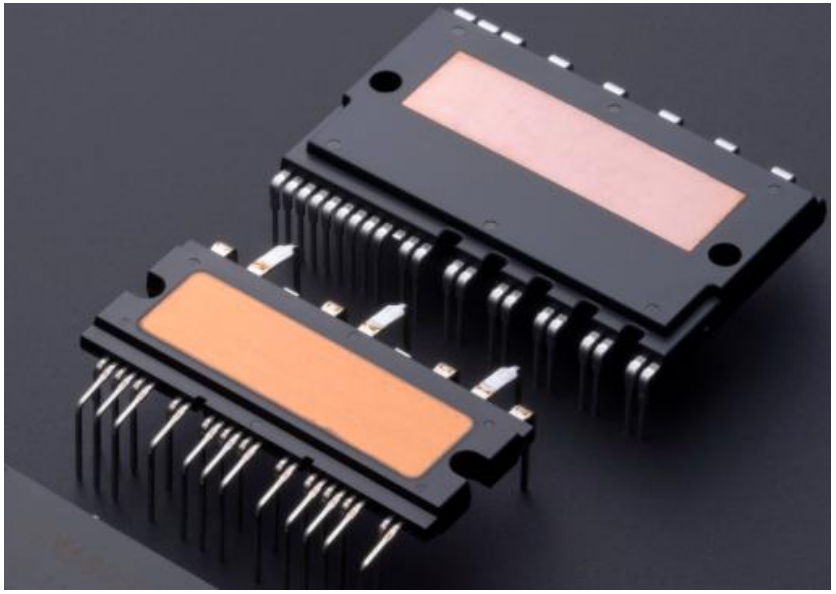
© 2026 Sanken Electric Co., Ltd.

マーケットポジション

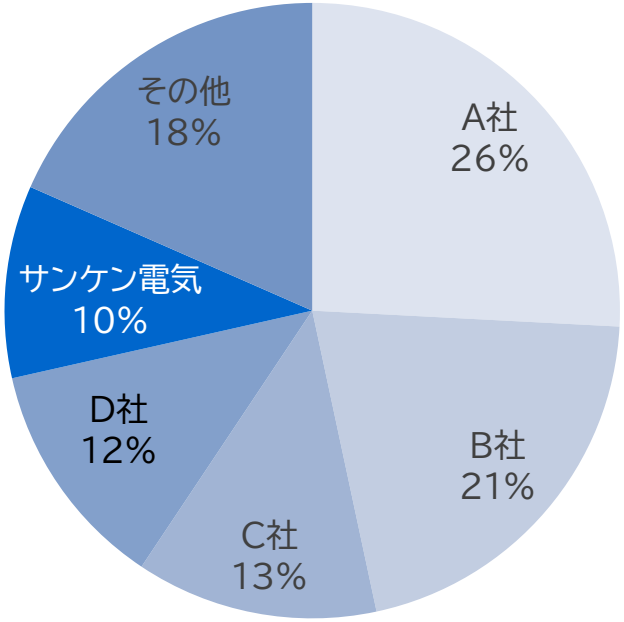
パワー半導体市場でグローバルの地位を確立

IPM(インテリジェント・パワーモジュール)

世界　5　位
国内　3　位



IPMマーケットシェア



富士経済「2026年版 次世代パワーデバイス関連市場の現状と将来展望」より

© 2026 Sanken Electric Co., Ltd.

Power Electronics
for Your Innovation

2027年3月期 第2四半期 決算説明会

© 2026 Sanken Electric Co., Ltd.

将来に関する記述についての注意事項

この資料に記載されている当社に関する業績見通し、計画、方針、戦略、目標、予定、判断、認識などのうち既に確定した事実でない記述は、将来に関する記述です。これら将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報と合理的と判断する前提を基礎として作成したものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいます。従って、実際の業績は、これらのリスク、不確実性、その他の要因により、業績見通しと大きく異なる可能性があります。また、当社は、適用法令の要件に服する場合を除き、業績見通しの見直しを含め、将来に関する記述を更新あるいは修正して公表する義務を負うものではありません。

当社が属するエレクトロニクス業界は、常に急激な変化に晒されていますが、当社の業績や財産に重大な影響を与えるリスク、不確実性、その他の要因には、(1)経済環境、市場・需給動向、競争状態、(2)為替レートの変動、(3)技術進化への追随の成否、(4)原材料の高騰あるいは調達難、(5)各国・地域における法制度の変更あるいは社会情勢の急変、(6)偶発事象の発生などがありますが、これらに限定されるものではありません。